



# ブラウバックセミナー Brown Bag Seminar

# 2021.4.28 (水)

日  
同時通訳  
英

オンライン  
(Zoom)  
技術支援  
九州大学 Q-AOS & TEMDEC  
録画期間限定公開

12:10  
12:50

12:10-12:15 紹介  
12:15-12:40 プレゼン  
12:40-12:50 質疑応答

## 人新世における生物多様性保全 - 自然保護地域の「外」をどう守るか

司会：清水周次 教授 (Q-AOS 機構研究統括)

生物多様性は、地球環境の急速な変化を緩和・低減させ、人類のレジリエンスを高める重要な役割を有しています。一方、「イエローストーンモデル」と呼ばれる従来型の自然保護地域では、生物多様性の保全に限界があることが指摘されており、例えば、日本における絶滅危惧種の半数は里地里山のような、自然保護地域の「外」に生息 / 生育しています。生物多様性を効果的に保全するには、実際に人々が居住しているような場所、つまり、自然保護地域の「外」(beyond the boundary) を含めて構想する必要があると考えられ、こうした境界領域は、複雑な土地所有や重複した法制度、多様な利害関係者という高い複雑性に対して、脆弱な行政資源しか持たないことが特徴的であると言えます。このような地域を適切に管理するには、「規制と監視」という従来型の政策アプローチに加え、「情報とインセンティブ」など、多角的な政策手法を効果的に組み合わせることが求められます。本報告では、"beyond the boundary" の特徴を有する日本の国立公園制度やユネスコの生物圏保存地域 (Biosphere Reserve) を取り上げ、生物多様性保全を推進するための仕組みとして、Platform、Partnership、Soft Law に着目し、議論します。



田中 俊徳 准教授

研究推進コーディネーター  
九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS)

田中俊徳氏は、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構にて准教授・研究推進コーディネーターを務めています。京都大学にて環境政策の修士号・博士号を取得したのち、北海道大学大学院法学研究科特任助教、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授等を経て、2021年4月1日より現職。主たる研究対象は、自然共生社会を実現するための法律・制度・組織で、自然保護地域のガバナンスや持続可能な観光、環境条約の国内実施の分野で業績を有しています。これまでに、ユネスコや科研費、住友財団、三井不動産など、国内外・官民を問わず多くの研究プロジェクトを獲得・推進しており、近年は、食システムや文化多様性、地方創成にも強い関心があります。



登録はこちらから

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_qQlqXs2rRWe6AwNcCl787Q](https://zoom.us/webinar/register/WN_qQlqXs2rRWe6AwNcCl787Q)